



地域マネジメント

令和4年度 地域づくり加速化事業（全国研修）

CONTENTS



目次

- 1 地域マネジメントの概要・意義
- 2 実施に向けて持つべき視点
- 3 目指すべき効果・成果
- 4 具体的に行うことの例
- 5 振り返り・まとめ

地域マネジメントが
求められる背景、基本的
考え方やその進め方の
ポイントを押さえる

人口構造の変化に伴うニーズの変化

- 医療と介護の両方のニーズを有する高齢者の増加。
- 認知症高齢者の増加。
- 一人暮らし高齢者や高齢夫婦世帯の増加。
- 生活支援を必要とする高齢者の増加。
- 生産年齢人口の減少。

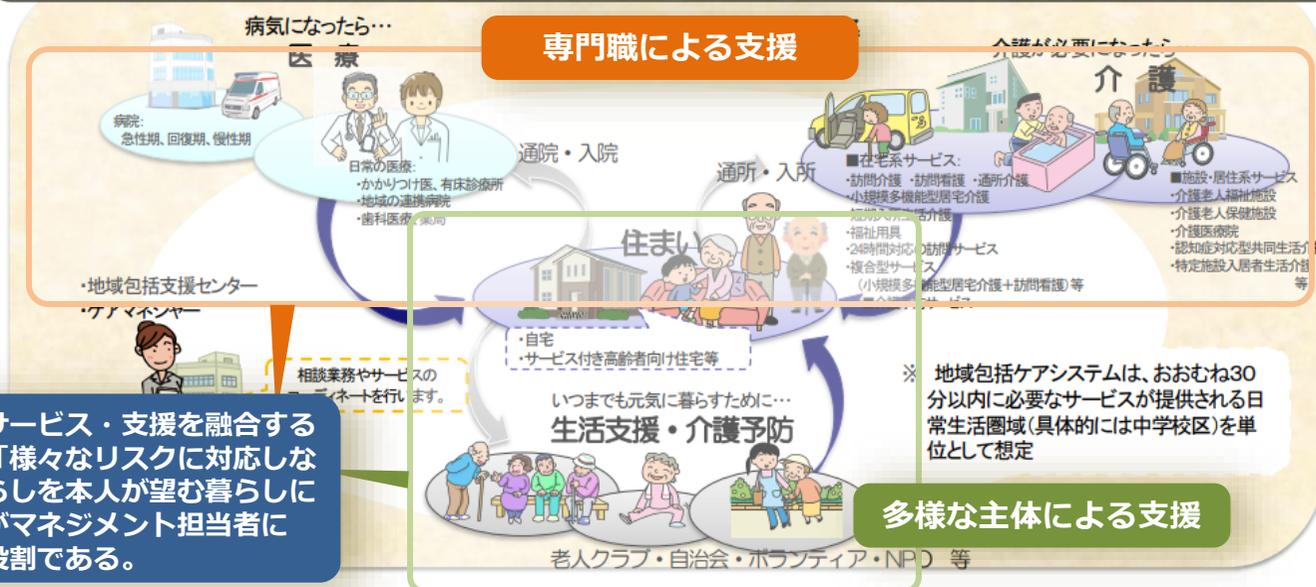
認知症や重度な要介護状態になっても、
住み慣れた地域で自分らしい暮らしを
人生の最後まで続けることができるようにする。

これを実現するためには、多職種・多主体が
有する力を統合して、高齢者が有する
課題を解決するといった、
地域マネジメントが必須となる。

地域マネジメントの目的は「課題の解決を通じた高齢者の望む暮らしの実現」である

「高齢者の望む暮らし」を実現するためには、専門職及び多主体による支援の両方が必要。そこで、**これら支援を統合し、高齢者が有する課題の解決を図る**といった地域マネジメントを適切に展開する必要がある。

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



※介護保険内外のサービス・支援を融合することによって、「様々なリスクに対応しながら、現在の暮らしを本人が望む暮らしに近づくこと」がマネジメント担当者に期待されている役割である。

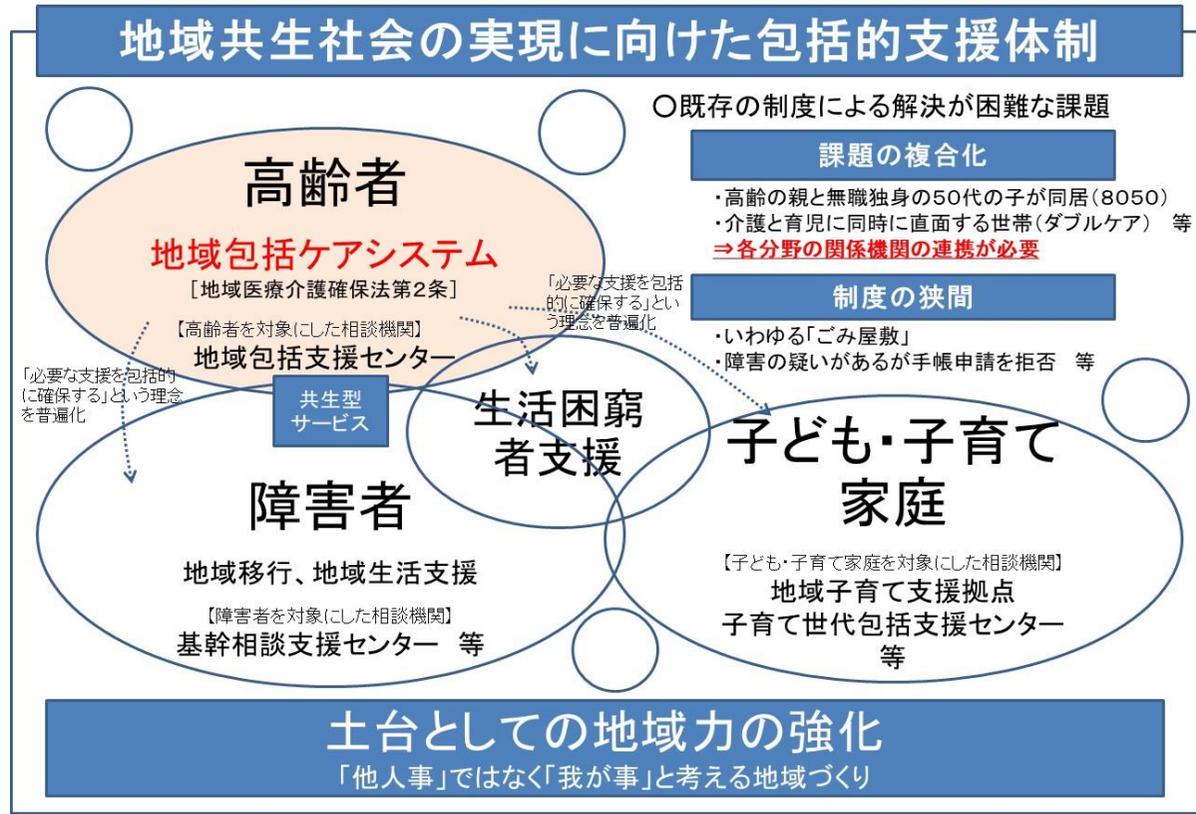
地域マネジメントは、課題設定⇒要因分析と対策の実行⇒評価の順に展開する

- マネジメントの目的は「課題を解決すること（＝現状を目指す姿に近づけること）」。
- 地域マネジメントでも、検討したいテーマ（例：通いの場を活用した活動性の向上の推進）を決めた上で、目指す姿の設定 ⇒ 現状把握 ⇒ 課題抽出 ⇒ 要因分析 ⇒ 対策の検討・実行 ⇒ 評価の順に展開する。



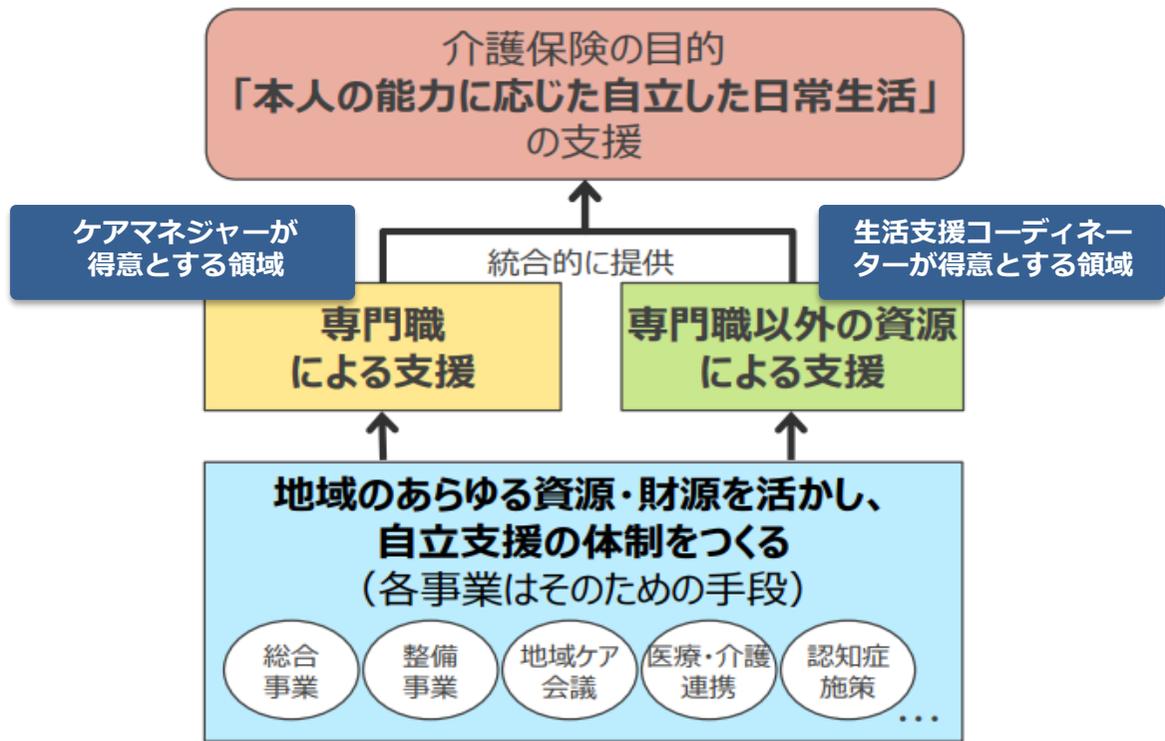
地域マネジメントの手法は、全ての世代の課題解決にも応用できる

- 課題の複合化により、課題解決を図るためには、異なる分野や領域の関係者が課題を共有し、それぞれが有する課題解決策を統合していく必要がある。
- 地域マネジメントの手法は、高齢者だけでなく、生活困窮者、障害者、子ども・子育て家庭など、**全ての世代の課題解決に応用できる、汎用性の高い手法**である。



視点1：協議体などを活用して、課題解決に関わる関係者の連携・協働を促す

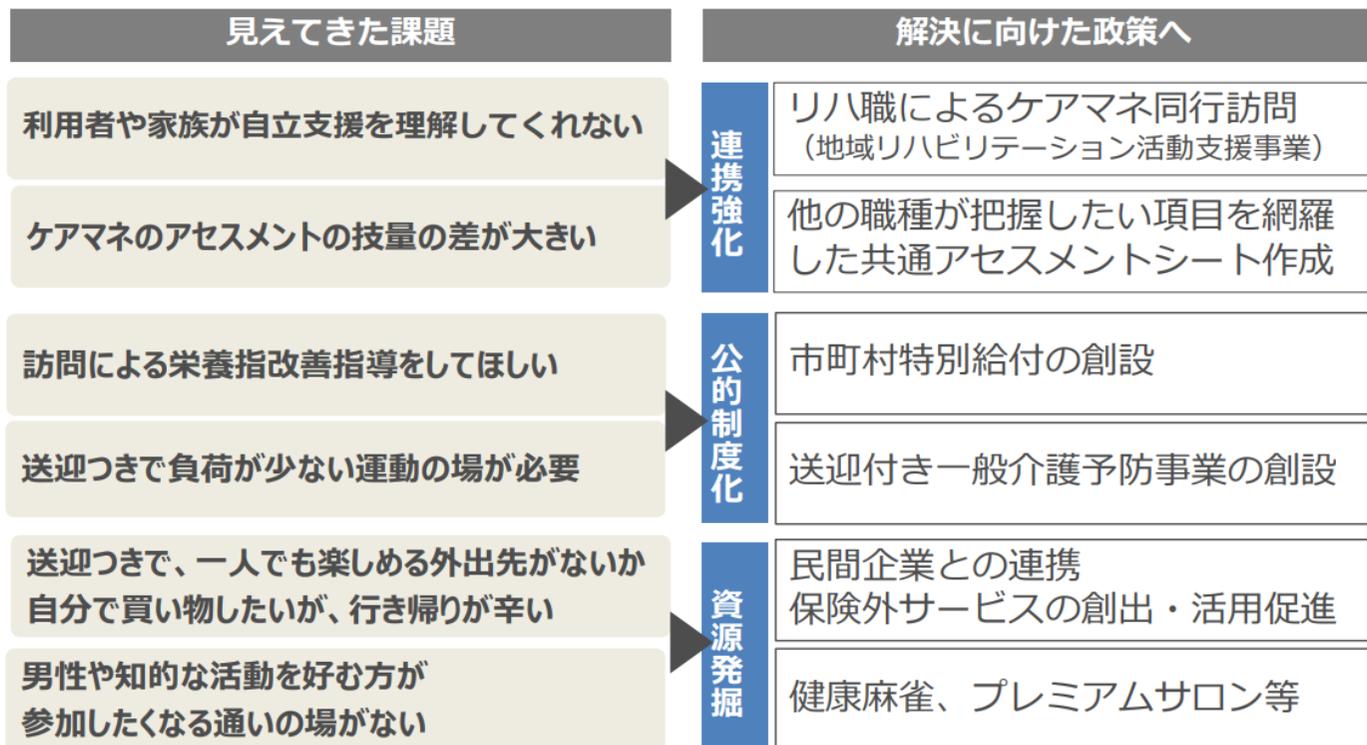
■ ケアマネジャーは介護保険サービスには詳しいが、自治会や民生委員などとの連携は弱い。他方、生活支援コーディネーターは自治会などとの連携には強い。
高齢者が望む暮らしを実現するためには、両者の連携が必須となる。また、
保険者には、これら連携を促す仕掛けづくりや既存事業の活用が求められることになる。



出所) 株式会社NTTデータ経営研究所：介護予防・日常生活支援総合事業／生活支援体制整備事業 これからの推進に向けて～伴走型支援から見てきた事業推進の方策～、平成30年度老人保健健康増進等事業補助金老人保健健康増進等事業「介護予防・日常生活支援総合事業及び生活支援体制整備事業の効果的な推進方法に関する研究事業」報告書（2019年3月）を一部改変

視点2：個々の事例から、課題・必要な資源を把握し、対策を考える

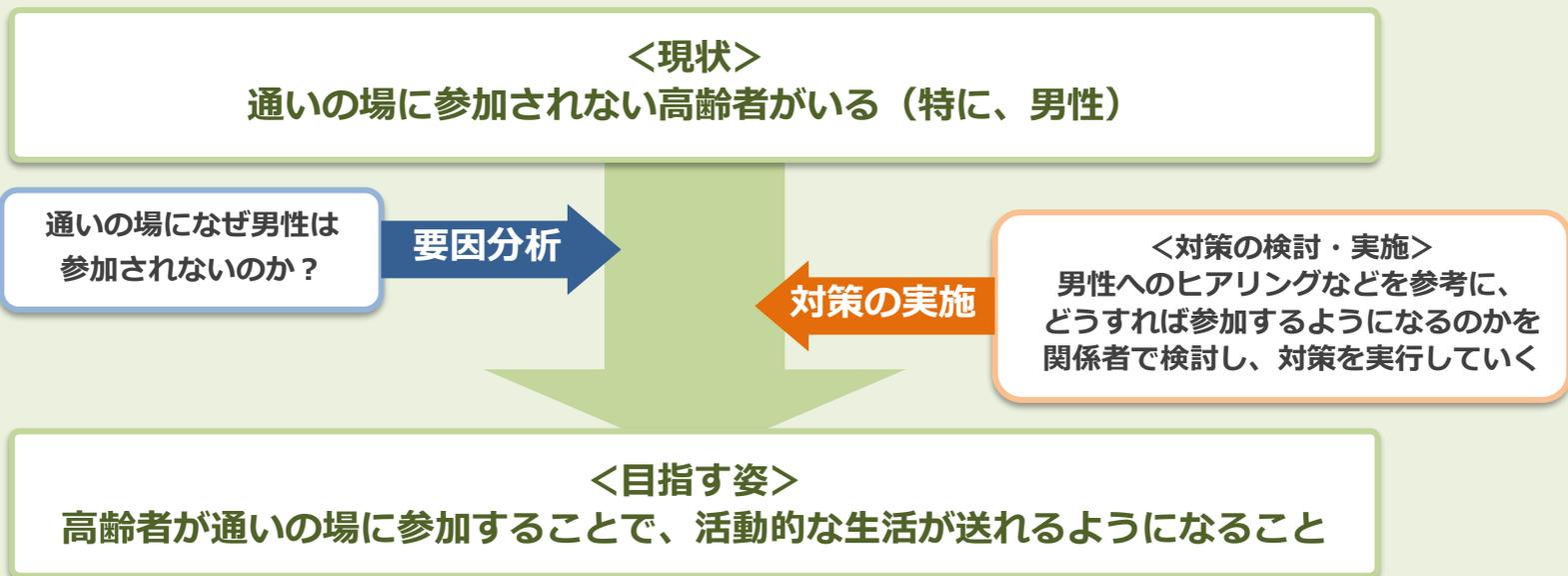
- 高齢者が抱える課題がわからなければ、何に対してどのような対策をとるべきかが検討できない。
- 課題を把握する1つの手法が「個々の事例が抱える課題を分析すること」であり、そのためのツールが「地域ケア会議」である。保険者は、個々の事例の課題そのものの解決を目指す必要はない（ここはケアマネジャーが行う）。**保険者として対応すべき課題は何かの視点で事例を眺め、対策を考えればよいのである。**



視点3：地域マネジメントの構造とその手順を理解する

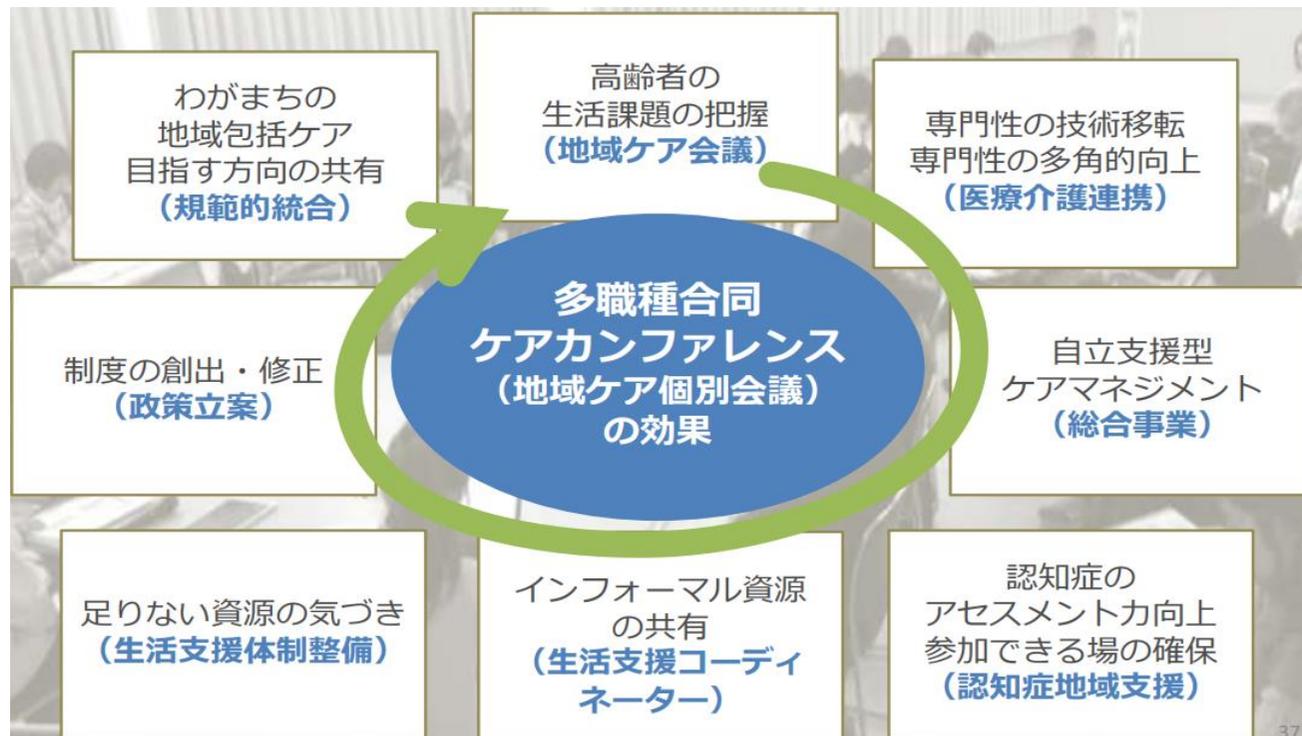
- 課題とは「**目指す姿**」と「**現状**」のギャップのことである。マネジメントでは、要因分析を行った上で、どうすれば現状を**目指す姿**に近づけられるかの視点で対策を考えていくことになる。
- 下図は「通いの場を活用して、活動的な高齢者を増やしていくためにはどうしたらよいか？」というテーマに関するマネジメントの構造例である。どのようなテーマを取り上げるかは、①前述した地域ケア会議の事例から抽出する、②高齢者に関わっている関係者からテーマを挙げてもらうなどの方法が考えられる。

＜テーマ＞ 通いの場を活用して、活動的な高齢者を増やしていくためにはどうしたらよいか？



視点4：課題をどうやって解決するかで、他部門の事業の活用を検討する

- 保険者は、「課題を解決するにはどうしたらよいか」ではなく、「国から示された事業や施策（＝手段）をどのように構築するか」に視点が向いている。その結果、他の事業を活用するといった視点が弱い。
- マネジメントでは、目指す姿を意識しながら、「課題を解決するためには何が必要か」を考え、そして、それを誰がどのようにやるかを考えていく。目的⇒手段の順に考えることで、他の事業の施策が活用できないかを考えるようになる（庁内連携は、形から入るのではなく、ニーズから出発する）。



出所) 豊明市：「ふつうに暮らせるしあわせをどう支えるか」地域資源の発掘と新しい価値感の創造を目指して—地域包括ケア「豊明モデル」けやきいきいきプロジェクト、第136回市町村職員を対象とするセミナー(2018年9月21日)より引用

施策担当者への効果・成果

- 手段から考える思考から、ニーズから考える思考に近づくことができる。
- 目指す姿を意識した上で、課題を把握する思考が身に付く
- 起こっている結果ではなく、原因に対してアプローチする思考が身に付く。
- より効果的な対策を考える力が付く
- これら思考の強化により、課題解決力が高まる。他の事業を担当した場合も、この手法を応用することができる。

他者／他部門／民間企業等との連携への効果・成果

- 他の事業が活用できないかの視点をもつことができるようになる。
- 様々な関係者（生活支援コーディネーターなど）との役割分担を明確にすることができる（自分の役割をより認識できるようになる）。
- 課題解決するためにはどのような社会資源が必要かがイメージできる。その視点で地域を眺めると、必要な社会資源を発見できるようになる。

各地の取り組み例（定期的なセミナーを活用した資源の把握とつながりづくり）

第4回 「何かやってみたい人」が出会い・つながる場

きたもと ごちゃませの会

～地域のつながりづくりに向けて～

7/23(土) 10時～12時
ZOOM開催 無料

内容
北本市の魅力的な団体・活動者
13人のプレゼンテーション（1人5分程度）

申込フォーム

プレゼンター

- ・ 明治安田生命 大宮支社 北本営業所
- ・ 北本ハイワールド
- ・ 寿病院
- ・ コーヒーとタイヤキのカラク
- ・ 福祉と暮らしラボ
- ・ (一社) コスモス成年後見サポートセンター
- ・ 在宅生活支援パートナー協会
- ・ きいろの窓口
- ・ 北本駅西口郵便局
- ・ 森と子育てのつどい（モリトコ）
- ・ B.Jバスケット
- ・ 社会福祉法人 一粒
- ・ パブリッシング株式会社
- ・ 地域共生プラザ びおもす
- ・ グループホームあおいとり

ゲストコメンテーター
埼玉県立大学教授 川越雅弘氏

協力
・ きたもとごちゃませの会コアメンバー
・ 埼玉県立大学地域包括ケアを推進するためのネットワーク会議

北本市社会福祉協議会
地域福祉グループ
TEL 048-593-2961
Mail kitamoto.shakyo@gmail.com

効果

- ・ 新たな出会い！ つながり！
- ・ 顔の見える関係性の構築、見える化
- ・ 活動、課題、思いの共有



協働による
社会課題の解決

各地の取り組み例（地域ケア会議を活用した地域課題と資源の把握）

生活にニーズが分かってはじめて
これまで見えていなかった「資源」が見えてくる

事例で磨かれた「勘」

昔カラオケが好きだった

買い物したいが、袋を持って帰れない

送迎付きのお出かけ先

自分で歩いて行ける場

これ使えるかも



生活支援コーディネーター



振り返り・まとめ

- 1 地域マネジメントの目的は「課題の解決を通じた高齢者の望む暮らしの実現」である。
- 2 地域マネジメントは、テーマを決めた上で、目指す姿の設定⇒現状把握⇒課題設定⇒要因分析と対策の実行⇒評価の順に展開する。
- 3 地域マネジメントの考え方は、生活困窮者／障害者／子ども・子育て家庭などが抱える課題の解決にも応用できる。
- 4 課題を解決するためには、関係者の連携・協働が必要。保険者は、協議体などの場を活用して、これらを促していく必要がある。
- 5 課題解決するためには何が必要かを考え、その手段として他部門の事業や施策が活用できないかを見にいくと、庁内連携ができるようになる。

■ 第136回市町村職員を対象とするセミナー

豊明市：「「ふつうに暮らせるしあわせをどう支えるか」地域資源の発掘と新しい価値観の創造を目指して」

<https://www.mhlw.go.jp/content/12600000/000361948.pdf>



20180921 第136回市町村職員を対象とするセミナー
「総合事業の実施状況を踏まえた課題と対応事例」

「ふつうに暮らせるしあわせをどう支えるか」
地域資源の発掘と新しい価値観の創造を目指して
地域包括ケア「豊明モデル」けやきいきいきプロジェクト

豊明市 健康福祉部 健康長寿課